

加悦SL広場視察報告

日 時	平成30年9月19日(水)午前10時～午後0時
視 察 先	加悦SL広場(京都府与謝郡与謝野町滝941-2)
対 応 者	宮津海陸運輸株式会社 管理部 管理課長 柴田 万喜也 様
参 加 者	杉岡秀紀委員長、赤井貴恵副委員長、吉見美晴副委員長、足立和義委員、本多洋子委員 事務局(渡邊、伊庭)
案内内容:	<p>平日は10人程度の来場であるが、夏休み期間中は平日でも40人、土日には100人来場されることもある。9対1で親子連れが多い。2割が来場予約。</p> <p>民営ということで自由度が高い。</p> <p>収益性はなく、鉄道遺産の保存が目的である。SL広場の事業単体での採算は取れていない。</p> <p>旧加悦町のときは、道の駅や鉱山跡地などが集積していることで観光拠点として行政との関わりもあった。</p> <p>年中無休で開館しているが、入館実績や人件費、人員の負担なども考慮して、土日・祝日のみの変更も検討している。</p> <p>パン屋や定食屋などのテナントから出店料をいただいているが、光熱水費や設備費、固定資産税などは会社が負担している。</p> <p>カフェトレインは施設の老朽化及び後継者不足もあり、閉業される。</p> <p>今の子どもはSLを知らない人も多く、また、普段の生活で電車に乗ることも少ないということから新鮮に感じていただいている。</p> <p>観光面などで行政との連携を図ることができていない</p> <p>道の駅との相乗効果ははかれていない。高速道路開通後、交通量自体が減っている。</p> <p>与謝野町庁舎の近くにある旧加悦駅舎の指定管理を受けているNPO法人加悦鉄道保存会に資料を寄贈して、展示いただいている。</p> <p>NPO法人加悦鉄道保存会が運営に協力されており、関西学院大学の鉄道関係の研究会からも整備作業にボランティアとして来てもらっている。</p> <p>会社に自動車整備の部門があり、社員で少しずつ車輛を補修しながら保存している。雨ざらしの車輛もあり、補修は追いついていない。</p> <p>車輛は現在27輛展示しており、福知山を走っていた車輛も展示している。</p> <p>バッテリーカーが1番人気である。</p> <p>NPO法人加悦鉄道保存会がガチャガチャを設置されている。</p> <p>初期費用は億単位。</p>



加悦SL広場正面入口



蒸気屋(定食屋)

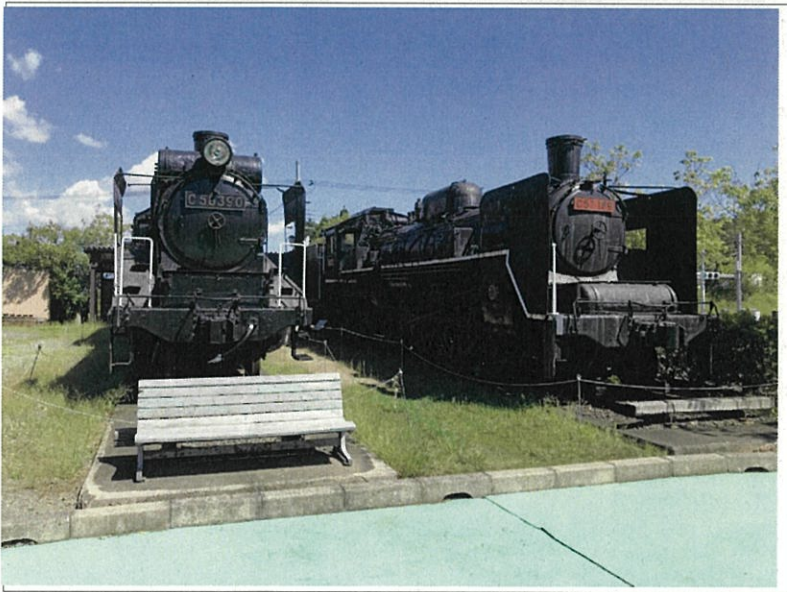


加悦SL広場入口前エントランス



バッテリーカー

3台



SL

第3回会議の主な意見-設置目的-

検討事項	決定事項
設置目的	<p>『福知山市内に、子どもからお年寄りまで幅広い層が集まる拠点をつくり、「鉄道のまち」福知山として発信するとともに、「みんなでつくる」「まち全体が鉄道のまち」をキーワードに、市内外を問わず人々が交流できる場と機会を創造する。もって、先人の努力で培ってきた「鉄道のまち」福知山の歴史を市民の誇りとして未来に継承するとともに、周辺地域とも連携しながら鉄道資源を活用した持続可能な観光地域づくりに寄与する。』を設置目的とする。</p>

第3回会議の主な意見-設置・運営主体-

検討事項	視点	主な意見
主体（整備・運営）	設置と運営	<ul style="list-style-type: none"> ○効果的かつ効率的な運営を行うという面で民営は欠かせない。 ○行政がファンドを活用して資金を調達するという事例もある。「行財政が厳しいから公設公営は無理」ということはない。
	入館者数	(入館目標数、達成要件等)
	費用負担	<ul style="list-style-type: none"> ○イニシャルコストが大きいため、公設ならざるを得ない。 ○行政がファンドを活用して資金を調達するという事例もある。「行財政が厳しいから公設公営は無理」ということはない。
	市民参画	○瓦1人1枚運動のときのような機運が感じられない。民営でも自立は難しい。
	選定方法	(主体の選定方法、誰が行うのか)

第3回会議の主な意見-施設内容-

検討事項	テーマ	主な意見
施設内容 (ソフト・ハード)	マニア・観光	<ul style="list-style-type: none"> ○お土産やカフェスペース（駅弁、オリジナルタオル、オリジナルグッズ） ○鉄道マニアへの写真等展示スペースの貸し出し ○ビデオライブラリー（OBの生の声を録音）
	子育て世代	<ul style="list-style-type: none"> ○飲食スペース（お弁当などをもって集まることができる） ○駅員制服、コスプレコーナー ○バッテリーカー、模型電車（有料にしても利用していただける） ○ジオラマ（経年劣化で修理が必要であるが、一番人気であった）
	歴史次世代継承	<ul style="list-style-type: none"> ○鉄道ワンダーランド ○プラレール（これまでの取組の実績がある） ○教育旅行の推進
	その他	<ul style="list-style-type: none"> ○市民パスポート ○まちなかミュージアム（スマホをかざしたら情報が分かるもの）

第3回会議の主な意見-設置場所-

検討事項	視点	主な意見
設置場所	回遊性	○福知山城や観光ルートにも関わる場所が有効ではないか
	集積性	○三段池公園内の場合、鉄道との関わりの整理が必要
	施設	<ul style="list-style-type: none"> ○児童科学館 ○丹波生活衣館
	アクセス性・駐車場	
	移転経費	

第3回会議の主な意見-資金調達-

検討事項	視点	主な意見
資金調達	イニシャルコスト	○公設でなければ困難である
	ランニングコスト	○ファンドは事業が軌道にのってから、設備投資の時期などに検討してはどうか。
	手法	○国・府などの補助も検討すべき ○地元企業や市民からの寄付も集めるべき ○誰がどのようにPRするのがポイントである ○事業主体の責任や負担を明確にして、ファンドは償還できないリスクがあることも理解していただく必要がある

カテゴリー	目的	旧施設にあったもの	新たに設置するもの
観る	北丹鉄道～現在に至る、福知山市における鉄道の変遷・歴史を学ぶ	①ジオラマ ②北丹鉄道に関する展示物	④旧施設にあった以外の、鉄道に関する展示物
	SLに携わった鉄道マンの生の話を聞く (永続的に)	③SLに関する展示物	⑤鉄道マンのお話をビデオライブラリーとして残す
	鉄道ファン・マニアの力を活かす		⑥展示できる場所のレンタル提供 ⑦施設外の鉄道にゆかりのある場所にて、ARを利用した説明
遊ぶ	子どもおよびその保護者の居場所作り	⑧プラレールの設置	⑨バッテリーカーなど遊具の設置 ⑩模型電動車の設置 ⑪子ども向け制服を着られるコスプレコーナー ⑫授乳室、おむつ交換スペース (バリアフリー化も含む) ⑬飲食スペース ⑭電車の見られる休憩スペース (飲食可能も含む)
休む	施設への滞在		
買う	施設存続のための収入源	⑮ガチャガチャ (カプセルトイ)	⑯地元おみやげ品 ⑰子ども向け鉄道グッズ ⑱ポップランド限定グッズ

施設内容詳細 (☆は新たに設置を検討したいもの)

【観る】

『鉄道のまち』福知山の歴史を市民の誇りとして未来に継承するための展示。

旧ポップランドの魅力として大きかった「SLに携わった鉄道マンの証言や想い」を永続的に継承。
鉄道ファンや鉄道マニアが全国から訪れるためのきっかけづくり。

①ジオラマ→市制60周年を記念して設置。旧ポップランドの目玉施設。

②北丹鉄道に関する展示物

鉄道の歴史を知る上で欠かせない資料。

③SLに関する展示物

☆④旧施設にあった以外の、鉄道に関する展示物→鉄道の歴史を理解する上で、昔だけでなく現在の資料も必要。
☆⑤鉄道マンのお話をビデオライブラリーとして残す→旧ポップランドの魅力であった鉄道マンの生の声を永続的に残すためには不可欠。
☆⑥展示できる場所のレンタル提供→鉄道ファン・マニアが全国から来館するきっかけ作りとして、壁やスペースを展示用にレンタル。写真やNゲージ・プラレールなどを展示してもらおう。鉄道イベントの開催地として使用してもらおう。
レンタル料を徴収することで収入源の要素も。

☆⑦施設外の鉄道にゆかりのある場所にて、ARを利用して説明→街なか周遊、タウンコミュニティの手段。スマホをかざせば当時の風景など。

《補足》

※教育委員会などに働きかけ、小学校～中学校の校外学習として、必ず利用してもらおうようにすべきである。

※目玉施設となるジオラマについては維持管理費をしっかり計上して、故障したまま放置することがないようにはすべきである。

【遊ぶ】

来館数の確保のためには、子どもおよび保護者の来館が不可欠。

2歳以上の動きたい子どもが遊べる場所や、雨天でも遊べる場所、土日祝日でも遊べる場所のニーズが多い。

子どもの来館を促すことで、将来の来館者を作り出すことができる。

⑧プラレールの設置→旧ポップランドの来館者増加の立役者の存在。子どもに来館のためには必要不可欠

☆⑨バッテリーカーなど遊具の設置→2歳以上の子ども来館のための手段。また動かすためにお金が必要のため、収入源の要素も。

☆⑩模型電動車の設置→鉄道0Bによって年に数回イベントで使用のものを常時設置。屋根がある場所が理想。乗車料を徴収して収入源の要素も。

☆⑪子ども向け制服を着られるコスプレコーナー→親子来館の促進。

☆⑫授乳室、おむつ交換スペース→乳幼児の来館には必要不可欠な施設。

《補足》

※プラレールについては、あくまでも来館の呼び水として使用。決して「プラレール館」にすべきではない。

※図書館や子育て支援拠点施設が休みの月・木曜日は開けておくことが望ましい。

※子どもからも何かしら料金を徴収するシステム構築。ただし、市民パスポートや誕生日は無料など福知山市民への優遇措置は必要である。

【休む】

観光施設としては、飲食できる場所であることが有利。

親子来館においても、飲食できる施設が利用者増につながっている（例：すくすくひろば）

☆⑬飲食スペース→飲食物の持ち込みが可能な場所。飲食店やお弁当販売（駅弁を売ってよいのでは）の設置が望ましい。

☆⑭電車の見られる休憩スペース（飲食可能も含む）→電車ファンが集える場所。

《補足》

※飲食店や弁当販売については食品衛生資格が必要のため、既存の飲食店や販売店の参入でカバーが可能。

【買う】

施設存続のためには入場料の徴収が必要だが、それ以外の収入源確保も必要。

鉄道ファンは来館の証にグッズを買う。

⑮ガチャガチャ（カプセルトイ）→子どもが大好きで人気があった。

⑯地元おみやげ品→市外からの来場、観光施設の意味合いを持たせなければならない必要。

⑰子ども向け鉄道グッズ→福知山近隣で子ども向け鉄道グッズ（おはし、スプーン、靴下など）販売店がほとんどない。

⑱ポップランド限定グッズ→鉄道ファンが「ポップランドにしかないもの」を購入する。

《補足》

※商品ではないが、福知山市民優遇措置として入場券の「市民パスポート」販売を検討すべきである。